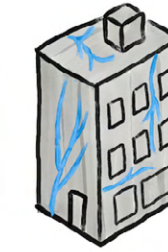


硝子継ぎ

日本には、金継ぎという伝統技法がある。器に入った亀裂や、欠けをあえて金で装飾しながら修復する技術である。傷を消すのではなく残し、それを肯定するように金を入れ景色を作るのだ。



建築物も膨大な時を重ねる中で、幾つかの傷がついてしまうものも少なくない。それらの、修復に金継ぎをヒントにガラスを用いて行う「硝子継ぎ」を提案する。



ガラスの透明性は傷を肯定しながらも修復する力を持っている。建築が生き残るためにガラスは使われ、ガラスは建築に寄生するようにそこにキラリと佇む。それは野生のガラスである。

